

フルラネルを有効成分とする鶏に寄生するワクモの駆除を目的とした飲水添加剤

イグザルト®

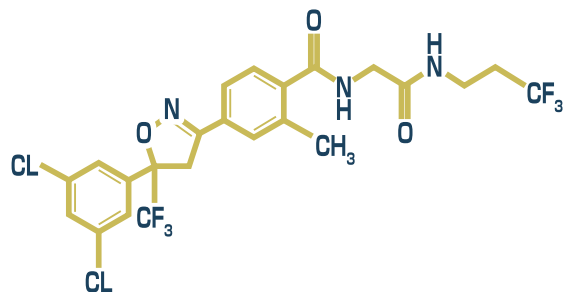
最近ぐっすり寝られて
体調よくない？
ストレスフリー最高！



エグゾルト

は、EU諸国を中心に
世界約40か国で販売されている飲水投与によるワクモ駆除剤です。

有効成分であるフルララネルは、動物に対する安全性と外部寄生虫に対する効果を求めて創薬されたイソキサゾリン系化合物であり、ワクモのGABA作動性塩素チャンネルをブロックすることで、神経細胞に作用し、過度の緊張を起こします。



エグゾルトの特徴

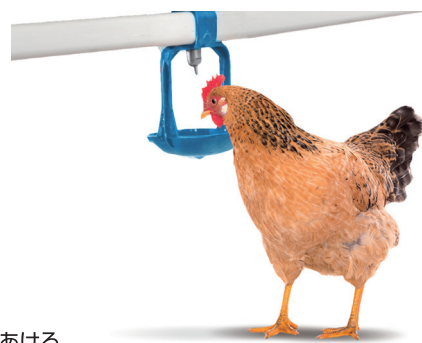


飲水投与なので投与が簡単

- 飲水投与なので投与が簡単です。
- 薬剤を散布する方法に比べ、ヒトが薬剤に接触するリスクが低く、安全です。
- 卵に対する休薬期間の設定は無く、投薬による卵の出荷スケジュール変更の必要がありません。

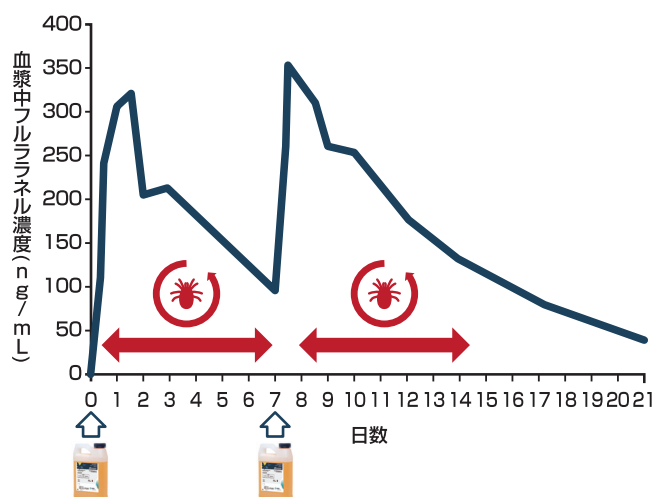
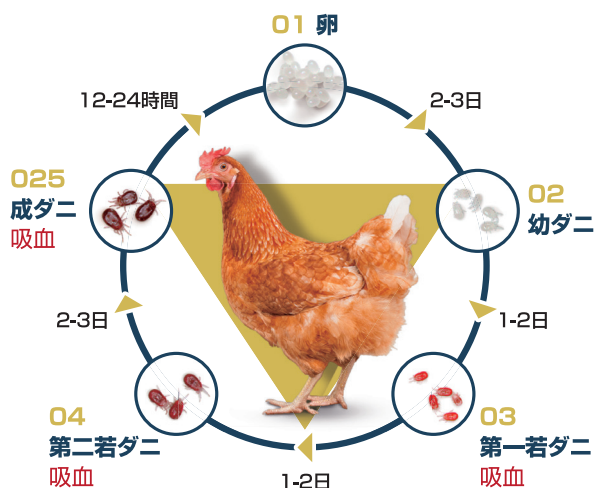
用法及び 用量

体重1kg当たりフルララネルとして0.5mg(製剤として0.05mL)を
飲水に添加して7日間隔で2回投与。
例)2kgの鶏に、5,000羽投与する場合、エグゾルトの使用量は1回500mL、
2回投与で1L(1,000mL)。ただし、反復投与する場合は、3か月以上の間隔をあける。



効果が速く、効率的にワクモを駆除

- エグゾルト投与後、有効成分は、速やかに吸収され、血液を介して鶏の全身の組織に行き渡ります。
- 投与から4時間以内に、その血を吸血したワクモの約99%を駆除することを可能とします。
(ワクモが鶏の血液を吸血するのは、第1若ダニ、第2若ダニおよび成ダニの時期)
- 7日間隔で計2回投与することにより、初回投与から少なくとも15日間は効果を示し、ワクモの2回分のライフサイクルを絶つことができます。





アニマルウェルフェア

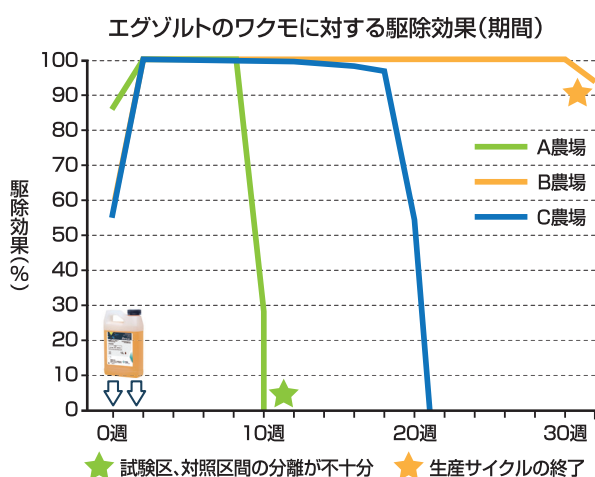
エグゾルトの投薬によりワクモをコントロールすることで、副次的に鶏のストレスを軽減することが報告されています。エグゾルト投薬後、ワクモの寄生により夜間休息できなかつた鶏の数が、約3割から1割未満に減少。ストレス指標である血中コルチコステロン量および偽好酸球／リンパ球比も著しく減少しました。

<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0241608>

また、EUでは、エグゾルトのSPC(製品概要)に、アニマルウェルフェアの記載が認められています。



エグゾルトの使用事例



エグゾルト投与群と対照群を設け Henderson-Tiltonの方法を用いて効果を算出。

$$\text{効果}[\%] = \left(1 - \frac{T_{\text{post}}}{C_{\text{post}}} \times \frac{C_{\text{pre}}}{T_{\text{pre}}}\right) \times 100\%$$

T_{pre}: 投与区の投与前の平均ワクモ数 C_{pre}: 対照区の投与前の平均ワクモ数
T_{post}: 投与区の採材日の平均ワクモ数 C_{post}: 対照区の採材日の平均ワクモ数

	A農場	B農場	C農場
国	ドイツ	フランス	スペイン
鶏種	デカルプホワイト	イサブラウン	ローマンブラウン
週齢	40	40	22
飼養羽数	19,500	66,000	100,000

投薬におけるポイント



ワクモが活動的な時期に投薬して下さい。

ワクモが鶏に寄生して、主成分を含んだ体液や血液を摂取することにより効果が発揮されます。ワクモの活動が盛んとなる時期(鶏舎内温度が昼夜問わず20℃以上)に投薬するようにしてください。



鶏に主成分が用量どおり、まんべんなく行き渡るようにして下さい。

給水ラインに、漏水がないこと、また、すべての給水器に給水されていることを確認して下さい。VAC-SAFE(塩素中和剤／着色剤)による確認をおススメしています。



必ず7日間隔で計2回投与して下さい。

エグゾルトはワクモが吸血しないステージ(卵、幼ダニ)には効果を示しません。初回投薬時に、卵、幼ダニであったワクモが成長し、2回目の投薬時に、吸血することで効果が発揮されます。



ワクモの再侵入を防ぐため、以下の点に留意してください。

- ・農場の清浄性を維持するように心がけて下さい。
- ・鶏舎間の人や器具の移動には細心の注意を心がけて下さい。
- ・鶏舎内に野鳥やネズミが侵入しないようにして下さい。

製品名	エグゾルト®		製造販売元（輸入）	MSDアニマルヘルス株式会社				
本質の説明 又は製造方法	本剤は、有効成分としてフルララネルを含む飲水投与剤（鶏に寄生するワクモの駆除剤）である。フルララネルはγ-アミノ酪酸（GABA）作動性塩素イオンチャンネルのアンタゴニストに分類され、節足動物のGABA作動性塩素イオンチャンネルに作用し、塩素イオンの神経細胞流入を阻害する。その結果、抑制が効かなくなり、過度の興奮を起こすことでワクモを死亡させる。							
成分及び分量	本品 1 mL 中	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成分</th> <th>分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主 剤</td> <td>フルララネル 10.0 mg</td> </tr> </tbody> </table>	成分	分量	主 剤	フルララネル 10.0 mg		
成分	分量							
主 剤	フルララネル 10.0 mg							
効能又は効果	鶏に寄生するワクモの駆除							
用法及び用量	体重 1 kg 当たりフルララネルとして 0.5 mg（製剤として 0.05 mL）を飲水に添加して 7 日間隔で 2 回投与する							
使用上の注意	<p>【基本的事項】</p> <p>1. 守らなければならないこと （一般的注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。 ・本剤は、効能・効果において定められた目的のみ使用すること。 ・使用前に添付文書等をよく読み、十分理解した上で使用すること。 <p>本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第 83 条の 4 の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物について上記の用法および用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。</p> <p>鶏：食用に供するために殺する前 14 日間</p> </div> <p>（使用者に対する注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時には防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、原液及び希釈液が、眼、鼻、口等に入らないように注意すること。 ・本剤を取り扱う時には、飲食、喫煙をしないこと。 ・薬液を調製する時は、泡立ないように注意しながら十分に攪拌し、直接手指でかき混ぜるようなことはしないこと。 ・本剤は、皮膚に長時間付着すると薬剤が皮膚から吸収されるため、使用後、あるいは薬剤が皮膚等に付いたときは直ちに石けん等でよく洗うこと。 <p>（取扱い及び廃棄のための注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。 ・使用期限が過ぎたものは使用しないこと。 ・開封後は 1 年以内に使用すること。 ・本剤には他の薬剤を加えて使用しないこと。 ・食品、飼料等と区別し、小児等の手の届かないところに保管すること。 ・本剤を添加した薬液が残らないように、適正使用のための注意事項に従って、薬液の調製、投薬を行うこと。 ・本剤又は本剤を添加した薬液を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例や指導等に従い処分すること。決して土壌や河川、湖沼、下水道等の水系や地下水を汚染するおそれのある場所には捨てないこと。 ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。 <p>2. 使用に際して気を付けること （使用者に対する注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。 ・本剤は、皮膚及び眼に軽度な刺激性がみられることがある。 ・眼、粘膜に薬剤が付着した場合には、直ちに多量の流水でよく洗い流すこと。 ・作業中に大量の薬剤を浴びた場合には、直ちに汚染された衣類を脱ぎ、シャワーを浴びるなどして体に付着した薬剤を洗い落とし、清潔な衣類に着替えること。 <p>（取扱いに関する注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正使用のための注意事項 <p>① 飲水量の測定</p> <p>鶏に本剤を添加した薬液を投与する時間（3～24 時間）を決定する。この時間は、すべての鶏が必要な薬液を飲みきるために十分な時間であること。投薬の前日に、薬液を投与しようとする時間における飲水量を測定する。ただし、投薬当日に鶏舎内の温度が 30℃ を超えることが予想される場合には、薬液の投与する時間を必ず 8 時間以内に設定すること。</p> <p>② 投薬のための本剤の必要量の算出</p> <p>投薬を正確に行うため、鶏の体重をできるだけ正確に測定する。また、本剤の必要量を量り取る際には正確な計量器を使用すること。薬液を投与する日に必要となる本剤の量は、次の式によって求める。</p> <p>本剤の必要量（mL）＝ 薬液を投与する鶏群の推定総重量（kg）× 0.05 mL</p> <p>本剤 500 mL で 1 日当たり 10,000 kg の鶏（体重 2 kg の鶏 5,000 羽）への投与が可能である。</p> <p>③ 薬液の調製方法</p> <p>本剤の必要量と水を飲水用のタンクや、薬液調製用のタンク等に入れて、均一になるまでゆるやかにかき混ぜる。薬液の調製は、投与の当日に行い、発泡を避けるため本剤と水は必ず同時に加えること。このとき、薬液を識別するために専用の着色剤を加えてもよい。本剤を量り取る際には正確な計量器は水ですすぎ、すすぎ液はタンクに加え、計量器に本剤が残らないようにする。使用後、残った薬液はキャップをしっかり締めて保管する。調製した薬液は 24 時間以内（30℃ を超える場合は 8 時間以内）に使用すること。</p> <p>④ 投薬の方法</p> <p>給水ラインは、正常に稼働し、漏水がないこと、また、すべての給水器に給水されていることを確認する。給水ラインの水抜き（水落とし）をしてから、調製した薬液を給水ラインに導入して投薬を開始する。調製した薬液のすべてが飲みつくされ、給水器から薬液が出なくなることを確認してから、通常の飲水に切り替えて、投薬を完了する。</p> <p>【専門的事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤のワクモ駆除効果は、ワクモを使った感染実験により、15 日間持続することが確認されている。 ・一般的に同じ種類の殺虫剤を連続使用した場合、薬剤に対する感受性の低下をもたらす可能性があるため、本剤を反復投与する場合は、3 か月以上の間隔をあけること。 ・本剤を投与した鶏群へのワクモの侵入及び再寄生を防ぐため、鶏舎及び農場の防疫対策の強化に取り組むとともに、周辺の鶏舎にワクモの発生が確認された場合には、それらの鶏舎にも本剤の投与を検討すること。 ・対象動物安全性情報 <ul style="list-style-type: none"> 本剤の安全性試験において、次のとおり鶏に対する安全性が確認されているが、本剤の過剰投与は薬剤が鶏及び卵に残留する恐れがあるので特に注意すること。 <p>① 産卵鶏に臨床適用量の 1、3 及び 5 倍量を 7 日間隔で 3 日間連続して計 6 日間投与した試験において産卵成績への影響はみられなかった。</p> <p>② プロイラーに臨床適用量の 1、3 及び 5 倍量を 7 日間隔で計 6 日間投与した試験において本剤の安全性が確認されている。</p> <p>③ レイヤー種鶏に臨床適用量の 3 倍量を 7 日間隔で計 4 日間投与した試験において繁殖成績への影響はみられなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副作用 <ul style="list-style-type: none"> 3 週齢の鶏に対して 7 日間隔で連続 6 回投与した安全性試験で、試験開始後 37 日の剖検において脾臓重量が用量依存的に低下する傾向が認められた。その後、試験開始後 55 日の剖検ではそのような傾向は認められなかった。 							

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

【製品情報お問い合わせ先】

MSDアニマルヘルス株式会社

東京都千代田区九段北 1-13-12 〒102-8667
TEL (03) 6272-1099 FAX (03) 6238-9080



JP-EXZ-210600005
EXP：2023年6月